

Eiche

Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町2-518-1 第二ワールド ナーシング ホーム内

TEL 047-461-9111 FAX 047-461-7010

1999年 年次総会開催



玉置名誉会長



前列左より鈴木理事、一人おいて加藤会長、Dr.シルヴィア・レーケン女史、
Dr.ジョン・クランパース氏、宗宮副会長、米澤氏

平成11年5月15日(土) PM4時～

ホテルオークラ「桃源」個室/出席者41名

恒例の当協会年次総会は、5月15日(土)4時PMよりJR千葉駅横 そごう10階ホテルオークラレストラン「桃源」個室にて開催された。開会に先立ち5月6日に逝去された東山魁夷名誉会員に全員起立して一分間の黙とうを捧げた。続いて挨拶に立った、加藤会長は、今年の重点目標として、習志野市の企画している、ドイツ軍捕虜帰国80周年記念行事(12月19日予定。特別史料展—ドイツ兵士の見た Narashino—1915～1919 習志野捕虜収容所)への協力、又草の根交流会(伊東名誉会長)との協調など外部団体との交流活発化を挙げたあと、平成10年度の活動、決算報告、平成11年度の活動計画、予算案が了承され終了。講演はDAAD(ドイツ学術交流会)次長 Dr.シルヴィア・レーケン女史により「ドイツの大学で何が起きている」と題して行われた。次いで6時50分より懇親会に移り会長の挨拶、玉置名誉会長の乾杯の音頭でスタート。美味な料理と飲み放題のビール/ワインに会話も弾み和やかな会となつて8時過ぎ閉会。

— 来賓出席者 — (順不同/敬称略)

- ・名誉会長 玉置 孝
- ・ドイツ学術交流会次長 Dr.シルヴィア・レーケン女史
- ・慶應義塾大学 講師 Dr.ジョン・クランパース
- ・習志野市 教育委員会 米澤 弘実

「ドイツの大学で何が起きている」
ドイツ学術交流会東京事務所
次長 Dr.シルヴィア・レーケン女史

ドイツ学術交流会
(DAAD)は、ドイツの大学の協同組織であり、大学の外国局と共同し、大学生と学者の国際学術交流に係る重要な機関である。一九九八年に約一〇〇種の交換計画で、五万七千人(外国人二万四千人、ドイツ人三万三千人)の学生と大学卒業生に補助金が与えられた。日独間での学生及び学者の交流を行う為に、DAADは文部省、日本学術振興会、科学技術振興会と協力、約千六百人の日本人が長期に亘りドイツの大学で研究中である。又、ドイツ人学生と外国人学生に対して、共通の研究課程を提供すべく、「外国対応の研究プロジェクト」も設けられている。さらに、約百の大学で「国際化」を進めており、「国際学習課程」では、学士、修士号を取得する事が可能である。又、DAADでは、母国で学士試験を通つた者は、最短二年半でディプロマ(大学卒業証明書)やマスターを取得する事が出来る「マスタープラスプログラム」にも助成金を出している。「DAAD友の会」「フンボルト奨学金OB連盟」といったOB組織も充実、米、英他から客員講師を招き、更には、学生及び大学講師の交換を行う「大学パートナーシップ」を推進する等、DAADは、一層の国際学術交流を計るべく努力中である。



ドイツ学術交流会
(DAAD)は、ドイツの大学の協同組織であり、大学の外国局と共同し、大学生と学者

※(会員消息)

当協会顧問大橋和夫元船橋市長は春の叙勲で勲三等旭日中綬章を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。

催物案内

平成11年度 活動計画

- 5月15日 第四会 理事会 10年度 活動報告、決算報告
総会 11年度 活動計画、予算案承認
講演会 DAAD Dr. シルヴァ・レカン女史
懇親会
- 6月5日 工場見学会 「横浜さとうのふるさと」
キリンビール ビア ヴィレッジ
- 7月3日 会員交流会
チターとドイツワインの会 (TOMO)
- 9月18日 ビール祭り ジョン万次郎 船橋店
- 10月10日 ドイツ留学生交流会 (水戸催楽園へバス旅行)
- 10月~11月 講演会 + ワイン試飲会
- 11月 ドイツ軍人慰霊祭
- 12月 クリスマスの集い
- 1月 役員新年会
- 2月 会員交流会

湘南日独協会企画ドイツ周遊の旅

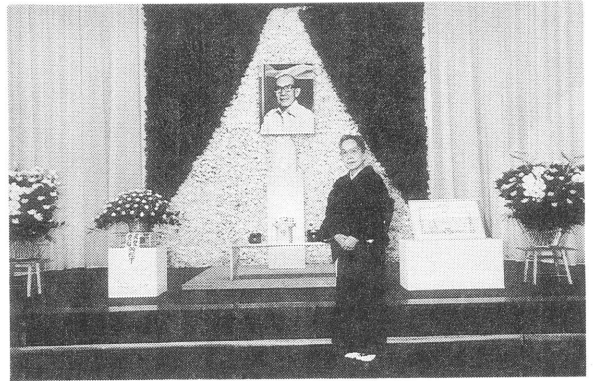
湘南日独協会のご厚意により、下記要領にて当協会会員も参加出来る事になりました。(格安)

- 1、期間：9月25日(土)～10月3日(日)
- 2、費用：325,000円(交通費、宿泊費、食費、税金、サービス料込み、但し宿泊は2名1室)
- 3、詳細・お問い合わせは、事務局迄ご連絡下さい。



前列左(財)日独協会河村理事、後は織田常務理事。

名誉会員 東山魁夷画伯を悼む



日本画の第一人者で当協会名誉会員、市川市名誉市民、文化勲章受賞者、日本芸術院会員、独ブルー・ル・メリット学術・芸術功労会員、ドイツ功労大十字勲章受賞者の東山魁夷画伯

(本名新吉)は5月6日午後8時老衰のため聖路加国際病院で逝去された。行年90。

8日密葬が営まれ、15日午後1時から画伯を送る「お別れの会」が青山葬儀所で厳粛盛大に開かれた。喪主はすみ夫人。(写真)

会は「東山芸術の精華となった昭和25年日展出展作<道>(平山郁夫画伯談)を白や青の花と緑の葉で模作した大きなパネルで飾った祭壇を前に、故人が好んだモーツァルトのピアノ協奏曲の献奏後、日本芸術院・犬丸直院長と日本芸術院会員・高山辰雄画伯がお別れの言葉を捧げ、約2500人の会葬者が献花した。

尚、ドイツ連邦共和国ヘルツォーク連邦大統領が、すみ夫人宛弔文を送られた。

謹んで御冥福をお祈り致します。

(写真は東山家提供)

【初夏の横浜、工場見学】

梅雨入り宣言が出たにも拘らず夏を思わせる好天の6月5日(土)。JR鶴見駅のバス乗り場集った約30名の会員は、塩水港精糖(株)の「横浜さとうのふるさと」へ。運良く、タイ国から原料糖を運んで来た本船の荷役も見ることが出来、冷房の効いた「ふるさと館」では、織田常務理事の挨拶のあと、山下館長の説明を聞いてビデオで砂糖に関する予備知識を習得。ビート大根の標本や徳之島から移植してあるサトウキビ、それに今田美奈子先生らが砂糖で作った自由の女神を見たあと、甘い蜜の匂いが充満する原料糖倉庫、砂糖の歴史がたどれるプロムナード、工場内の結晶缶などを見学して、一同身近な食品である砂糖を再認識。又、この場所は、TVドラマのロケにも良く使われる由。『オリゴのおかげ』の土産を頂いて、次はバスで生麦のキリンビール工場へ。ビールの起源がシュメール時代迄遡る事に驚き、ビンや缶詰めからラベル運搬迄全てオートメーション化している近代的工場に感心して、ビアビレッジ2階の個室で懇親会。ここでしか味わえないというスプリング・ヴァレーやハートランド

(地ビール)には会員諸氏も大いに満足。自己紹介もして交流を深め8時過ぎに散会。とても有意義で楽しい会でしたとのコメントを多くの参加者から頂きました。